

令和6年度

「ふるさと学習」

実践事例集

令和7年3月

廿日市市教育委員会

令和6年度 「ふるさと学習」 実践事例集

目 次

〈学校名等〉		学年	〈単元名〉	〈ページ〉
1	廿日市小学校	5	「地域の方に感謝の気持ちを伝える 計画を立て、準備し、実行しよう」	1
2	平良小学校	5	環境について考えよう！	2
3	原小学校	3	原のくらしから学ぼう	3
4	宮内小学校	3	宮内ってすてき！	5
		4	宮内盛り上げ隊	6
5	地御前小学校	3	地御前のすてきをみつけよう～町探検と交流会で～	8
6	佐方小学校	3	佐方もっと大好きプロジェクト	9
7	阿品台東小学校	3	「阿品台のすてき 見つけ隊！伝え隊！広げ隊！」	10
8	阿品台西小学校	3	阿品のすてき	11
9	金剛寺小学校	4	串戸の福祉～串戸のまちづくりをしよう！～	12
10	宮園小学校	5	安心・安全なまちづくりのために	13
11	四季が丘小学校	3	「まちのすてきを見つけ隊」～すてきな人を紹介しよう～	14
12	友和小学校	3	ふるさととの良さを発信しよう！～HIT広島観光大使～	15
13	津田小学校	6	「サンフラワープロジェクト」～「津田のひまわり畑」をもりあげよう～	16
14	吉和小学校	3～6	吉和の宝を見つけ、発信しよう	17
15	大野東小学校	1	なつがやってきた・いきものとなかよし たのしいあきいっぱい	18
		2	みんなでつかう まちのしせつ	19
		3	大野のすてきな人を見つけよう	20
		4	災害を調べよう・災害に備えよう	21
		5	「廿日市の『味力』 伝え隊」	22
		6	「大野の今を見直そう！」	23
16	大野西小学校	4	「大野のステキを見つけよう～大野の達人から学ぼう～」	24
17	宮島小学校	4	宮島の防災意識を高めよう	25
18	廿日市中学校	1	世界遺産のあるヒロシマと宮島から学ぶ～持続可能なまちづくりの提言～	26
19	七尾中学校	1	「ふるさと宮島を知ろう」～校外学習を通して～	27
20	阿品台中学校	1	「ふるさと学習Ⅰ(阿品・阿品台) 防災学習」 「ふるさと学習Ⅱ(宮島)」	28
21	野坂中学校	1	～宮島の魅力を発見し、伝えられるようになろう～	29
22	四季が丘中学校	1	ふるさととの仕事を調べよう	30
23	佐伯中学校	1	地域学習 佐伯の魅力を再発見しよう～津田商店街の活性化へ向けて～	31
24	吉和中学校	2	自分を磨くⅡ～なりたい自分とこれからの生き方～	32
25	大野中学校	2	「大野元気プロジェクト」志Ⅱ 安心して住み続けられる大野をめざして	33
26	大野東中学校	2	廿日市・宮島と京都の比較学習	34
27	宮島中学校	3	Unit6 Beyond Borders	35

単元名

「地域の方に感謝の気持ちを伝える
計画を立て、準備し、実行しよう」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎地域の方の思いに対して、私たちは何ができるのだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●地域の方は、なぜ私たちを支え、見守ってくれるのだろうか。

【単元の目標】
地域の方とのつながりやかかわりについて考えることを通して、自分たちの地域や文化に誇りをもち、地域と積極的にかかわろうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・廿笑応援団

★学習活動のアピールポイント★



<おむすびと豚汁作り>

<プレゼントお守り作り>



<ミニ劇の発表>

<ふれあいゲーム>



- ・入学してからずっとどの学年もお世話になっている「廿笑応援団」に支えていただいたことを振り返る活動を設定することで、児童自ら課題を見出し、主体的に活動に取り組んだ。
- ・地域の方へ感謝の気持ちを伝えたいという思いから、「感謝の会」を開くことになり、そのための役割を考え、分担した。その際には、自分の興味・関心のあるチームに所属できるよう選択できるようにした。
- ・感謝の会では、学習支援をしていただいたことを劇化したり、ゲームをしながらふれあったり、学習内容をいかして裁縫したものをプレゼントしたり、調理をしてもてなしたりして表現した。

児童生徒の成長した姿（○）

- 感謝の会を開くことを決めてから、校長先生より「次期、最高学年、廿日市小の代表として」実行して欲しいと、ミッションを授かることでさらに意欲を高めた。
- 会を成功させるためにチームで協働して活動することができた。また、実行したことにより地域の方からのリアクションをいただき、自己有用感を高め、最高学年となる意識も高まった。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇自分たちが計画、準備、実行したことでお互いが笑顔になり、喜びを共感できて嬉しかった。
- ◇今まで当たり前前に支援していただいていたけれど、振り返ると様々な場面で学習支援を受けたり、愛情を注いでいただいたりして自分が成長してきたこと、安心して学習に取り組むことができたことに気付き、改めて感謝の気持ちをもつことができた。

単元名

環境について考えよう！

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎よい環境ってどんな環境だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●環境をよりよくするために自分たちにできることは何だろうか。

【単元の目標】
日本や世界が抱えている環境問題を知ることや校区内の環境調査を通して課題を設定し、環境をよくするために自分たちにできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・広島県環境保健協会
・廿日市市生活環境部ゼロカーボン推進課

★学習活動のアピールポイント★



<水辺の生き物教室>



<プロジェクト活動（公園の清掃活動）>



<まとめの発表とフィードバック>



- ・社会科や理科等と関連して地球規模の環境問題について知識を習得した上で、校区内の環境調査や可愛川の生き物・水質調査を体験したことは、身近な平良の環境について考える手立てとなった。
- ・課題設定後に、複数のプロジェクトチームを編成し、児童が自分たちにできることを選択し、計画・実行できる学習形態をとった。
- ・調査や活動を通して分かったことを、チームごとに表現方法を工夫しながらまとめて発表した。その際に、児童や保護者など、他者からのリアクションを受け取ることができるようにした。

児童生徒の成長した姿（○）

- 今まできれいだと思っていた平良の町の環境は、調べてみると問題点があることに気付くことができた。
- 体験活動を通して自分事として捉えながらSDGsの視点から環境問題について深く考える姿が見られた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇公園清掃を通して人が捨てたゴミがたくさんあることに気付いた。
- ◇町の人が気持ちよく過ごせる環境にするためには、人の意識から変えていくことが必要だと思った。平良小のみんなや保護者の人に呼びかけることができよかった。

単元名

原のくらしから学ぼう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさと原のよさとは、何だろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●ふるさと原のよさを発信するには、どうしたらよいだろうか？

【単元の目標】
お米について、観察したり調べたりする活動を通して、自ら課題を発見し、追求する。また、稲刈りなどの体験活動を通して、地域のお米を育てている人の苦労や願いを知り、地域に愛着を持つとともに、地域のために自分達ができることを考え、実践する。

【連携諸機関・人物】
・地域の方々
（田中 修二様 他）
・保護者の方々

活動の概要

原小学校では、伝統的に地域の方から田と畑を貸していただいて、1～4年生が米作り、1・2年生がサツマイモ栽培を行っている。今回、3年生は『原のくらしから学ぼう』の単元で、地域のイベント「ハラっぱマルシェ」において、収穫したもち米を販売する活動に取り組んだ。計画については児童に委ね、児童が主体的に販売に必要な情報やものについて調べ、問題点の解決に向けて具体的な計画を立てられるようにした。

★アピールポイント★

＜稲作体験 1～4年＞



活動風景



- ・計画を立てる段階から児童に委ね、児童が主体的に興味・関心のある事柄について協力して調べ、体験し、発信できる学習形態をとった。
- ・算数科のはかりの目盛りの読み取り、社会科のスーパーマーケット見学など、既習事項を生かせるように横断的にカリキュラムを工夫し、学習をスパイラルで深めていけるようにした。
- ・学級全体で協働的に活動できる場面を設定し、力を合わせて成し遂げていく喜びを得られるようにした。
- ・地域学校協働本部を中心として、地域の方々の協力を仰ぎ、児童がやりたいこと、体験したいことが最大限実践できるようにした。
- ・感謝の気持ちをもって活動できるよう、地域の方々の協力があって活動ができていることや道徳で学んだことを身近に生かせることを助言した。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- ふるさと原の自然を生かしたもち米の素晴らしさと、稲作を守り受け継いでこられた方々の努力について改めて感じ取り、児童が地域に対する誇りや愛着を得ることができた。
 - もち米の価格をスーパーマーケットで調べてきたり、米作りでかかった経費を考えたりと、商品の価格がどのようにして決まっているのかについて、学びを深めることができていた。
 - 出店に向けて話し合い、準備をしていく活動を通して、意見の相違から合意に至ったり、得意な分野を生かしてみんなで補い合ったりする、協働的な活動を行うことができていた。
 - 自分たちの主体的な活動を貫いて成功した体験を通じて、児童が自分たちで考えて行動していくことに自信をもつことができた。
 - 販売を通して、大きな声で客を呼び込んだり自分で考えて作業効率を改善したりと、成長してゆく姿が見られた。
 - お世話になった方々に、もち米販売の収益からお返しをしようとするなど、感謝の気持ちを表現できた。
- ◇米作りは大変だったけど、きれいな白いお米になったのを見たとき達成感を感じた。
 - ◇米作りにはたくさんの時間と作業が必要だとわかった。昔の人は手作業で脱穀などを行っていたからすごいなと思った。
 - ◇お米を計量したときに算数の「重さ」の学習がすぐに役に立って、算数の必要性を実感した。
 - ◇もちをついてお客さんに配ったとき、たくさんの人が笑顔になっていて嬉しかった。原のよさを知ってもらえたのではないかな。
 - ◇店名やもち米の名前を自分たちで話し合っただけで決めたことで、自分たちのオリジナル感があり、がんばって売りたいというやる気が出た。
 - ◇FMはつかいちの番組に出演し、自分たちの声をたくさんの人に聞いてもらえたのが嬉しかった。もっといろんな人に原のよさを知ってもらいたい。
 - ◇もち米の販売はたくさん声を出して大変だったけど、売り切ることができて嬉しかった。
 - ◇自分たちが育てたもち米を、みんなと楽しく料理して食べることができて嬉しかった。

【育成を目指す資質・能力】情報を比較関連付ける力。調べたいことを見つけ、解決に向け情報を集め、わかりやすくまとめ表現する力。友達や地域の方と協力しながら粘り強く追求することを通して、自分と地域とのかかわりについて考えをもつ。

単元名

宮内ってすてき

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎よりよく生きるとは。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●私たちの町はどうしてすてきなんだろう。

【単元の目標】

宮内のすてきを調べて自分とのかかわりを考えよう。

【連携諸機関・人物】

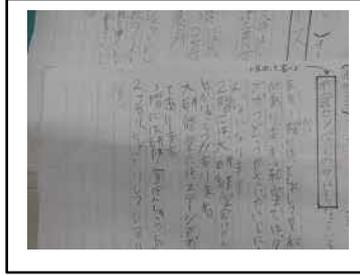
- ・地域の公共施設の方
- ・お寺や神社の方
- ・地域について詳しい方

★学習活動のアピールポイント★



地域のお寺の方にお話を
していただいた。

<地域人材、財産等の活用>



国語で学んだ情報整理の
仕方やレポートの書き
方、要約の仕方を生かし
てまとめた。

<他教科等との関連>



ICT を活用して情報収集
を行ったり、アンケート
を行ったり、スライドに
まとめたりした。

<ICT の効果的な活用>

児童生徒の成長した姿 (○)

- 要約する力がついた。
- グループ活動で役割分担や協力する力が
ついた。
- 地域への関心が高まった。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇すてきな町のひみつは、たくさんの地域
の方が関わることで、素敵にしてくれて
いたことに気づいた。
- ◇地域への感謝の気持ちが高まった。

【育成を目指す資質・能力】
調べたことを基に、自分達でできる内容を考え、考えたことを実施するために必要な準備をし、実行する力

単元名

宮内盛り上げ隊

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎地域を盛り上げるために自分達ができることは何だろう

【連携諸機関・人物】

・廿日市市環境保健協会

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●宮内の地域のよいところって何だろう

【単元の目標】 地域の人や家族に、宮内盛り上げ隊として考えた内容をグループごとに表現し、地域のよさや守っていきたいという思いを発信することができる。

★学習活動のアピールポイント★



＜参加プロジェクト・桜＞



＜復活プロジェクト・宮内音頭＞



＜参加プロジェクト・川＞

「宮内をもっと好きになろう そして守っていこう」

① 自分達が住んでいる地域の特徴を出し合う

- ・川沿いに桜並木がある。 ・御手洗川がある。 ・公園が多いが遊具の少ない公園がある。
- ・家やアパートが多い。 ・道が狭いので避難するときに混む恐れがある。
- ・人が集まる集会所がある。 お年寄りが多い。 など

② 地域の特徴から3つのプロジェクトに分かれて自分達の思いを出し合う

☆ 復活プロジェクト…（宮内音頭）

- ・先人達の知恵・工夫など音頭を通して知り、宮内音頭の素晴らしさを地域の方に伝え、復活させていきたい。

☆ 参加プロジェクト…（桜・川・公園）

- ・宮内のほこり「桜」をこれからもずっと見ていたい。

★ 守るプロジェクト… (防災)

- ・防災のことを学んで、いざという時に何を備えればよいか知ってもらい街の人を守りたい。

③ プロジェクトスタート「自分達のできることは何だろう」

★ 復活プロジェクト

- ◎歴史や踊りに込められた思いを調べたり、インタビューしたりしたことを紹介する。
- ◎踊りを練習し、家族や地域の人と一緒に踊る。

★ 参加プロジェクト

- ◎「桜」種類や歴史など桜について調べ、スライドを使って紹介する。
- ◎「桜」提灯を作って桜並木に飾ってもらう。
- ◎「川」社会見学新聞を利用しながら、今と昔の違いについてスライドで紹介する。
- ◎「川」3年生に御手洗川について調べたことを伝える。
- ◎「公園」全校児童にアンケートをとり、人気のある公園や遊具についてパソコンを使ってグラフにまとめる。アンケート結果からおすすめの公園を紹介し、遊びに訪れたいという思いをもってもらう。
- ◎「公園」危険なところや要望などをまとめて発信する。
→発信する方法を調べる。(学校外との連携 宮内市民センターなど)

★ 守るプロジェクト

- ◎社会科「地震からくらしを守る」の学習を生かし、対策や準備するものなどをスライドにまとめて全クラスに発信する。
- ◎発信の際は、家族や地域の人にも伝わるように呼び掛け、新聞やポスターを制作する。
→安心・安全な宮内をめざす。

児童生徒の成長した姿 (○)	児童生徒による振り返り (◇)
<p>○興味のあるプロジェクトに参加しているので、意欲的に関わりながら活動するようになった。</p> <p>○新たな課題に対して、他のプロジェクトチームからのアドバイスを参考にしながら解決しようとしていた。(コミュニケーション能力)</p> <p>○子ども達同士で役割分担を行うことや情報交換が活発になるなどコミュニケーション面で成長がみられた。</p> <p>○ボランティアの人達や学校に関わる人達に感謝するようになった。</p>	<p>◇今まで知らなかったことを学ぶことで、もっと宮内のことを知りたくなった。</p> <p>◇先人たちの思いを感じるだけでなく、自分達が守っていきたいと思った。</p> <p>◇宮内音頭は小さいころ一度だけ踊ったことがあったが、改めて踊りを伝えていきたいと思った。</p> <p>◇私の家は防災に関する意識が低いので、再確認したいと思った。</p> <p>◇どうすれば伝わりやすくなるか悩んだけど、みんなで解決することができて嬉しかった。</p>

単元名

地御前のすてきをみつけよう ～町探検と交流会で～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎地御前の町を知ってもらうには、どうすれば良いだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●地御前の町にはどんなよさがあるのだろうか？

【単元の目標】
地御前に関心を持ち、町探検や交流会を通して地域にある史跡や施設などの役割を知りながら、地御前の良さに気づき、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・地御前郷土文化保存会
・地域の寺社
・地域の商店
・地域の公共施設
・地御前小お助け隊

★学習活動のアピールポイント★



<町たんけん1>



<町たんけん2>



<交流会>

- ・社会科「学校のまわり」での町探検学習を通して、地域にある史跡やお店、公共施設を確認しながら、まちへの興味・関心をもたせ、調査する課題意識を引き出した。
- ・まちのどこを、何を調べるのかなど調査の計画を、グループごとに立てさせた。とくに施設の方に聞きたいことを明確にもたせて、児童が意欲的に調査していくようにした。
- ・調べたことを表現するために、各自でタブレット（ロイロノート）を活用してまとめた。児童の達成感の向上につなげるため交流会を設定して、地域の方から直接感想や意見を聞くことができるようにした。

児童生徒の姿（○）

- 自分たちが住んでいるまちでも、知らないことがたくさんあることに気づき、ここでの新たな発見が、地御前のよさをみつける学習意欲を高めていた。
- 集めた情報をまとめる際には、調査の時にもっと写真を撮っておけばよかったなどと、次の課題を見つけながら学習を進めていた。
- 地域の方との交流会に向けて、相手意識をもってまとめを作成していた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇地御前には、古い建物や新しい建物等、いろいろな種類の建物があることを知った。
- ◇行ってみたいコースを選び、みんなでまち探検できたので、楽しく調べることができた。
- ◇地御前のまちには、地御前を大切にしようとする人がいることがわかった。
- ◇地域の人に発表するのは緊張したけど、いろいろなことを教えてもらえてよかった。

単元名

佐方もっと大好きプロジェクト

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

◎地域に伝わる伝統芸能を絶やさないためにはどうすればよいか？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

●地域に伝わる伝統芸能の魅力を伝えるために自分たちにできることは何か？

【単元の目標】

佐方地域で昔から行われている佐方音頭や獅子舞い、神楽舞いについて学習する中で、地域に伝わる伝統芸能の良さに気づき、地域にこれからも受け継がれることを願い、伝統芸能への思いや良さを伝承するために自分たちにできることを考え、行動しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・日本舞踊 師範 (藤間さん)
- ・佐方獅子舞保存会 (橋本さん)
- ・下河内神楽団

★学習活動のアピールポイント★



＜地域に伝わる伝統に触れる体験活動(佐方音頭)(神楽)(獅子舞)＞

＜校内での体験会開催＞



＜運動会で披露＞

＜校内での祭り開催＞

＜保護者への発信＞

- ・地域に伝わる伝統についての話を聞いたり、見る・踊るなどの体験をしたりする活動を通して、児童の関心・意欲が高まった。
- ・学校行事である運動会の学年発表で教えてもらった佐方音頭を取り入れたり、在校生に佐方音頭体験会やグループごとに様々な出し物をブースごとに開いた祭りを開催したりすることで、自分たちの感じた楽しさを広げたい・伝えたいという思いをもって、主体的に取り組む姿が見られた。
- ・グループごとに自分たちが調べたことをまとめる際には、誰にどのような方法で伝えることが効果的かを考え、ICTを活用するなど様々な方法でまとめて、発信することができた。
- ・校内で在校生対象に「佐方大好きれきし祭り」を実施し、自分たちが学んできたことをグループごとに実演して楽しさを直接的に伝えたりスライドや紙芝居を作成し、学んできたことを伝えることで、地域に昔から伝わってきた伝統について知ってもらうことができた。
- ・地域の方や保護者を招いて、「佐方大好きれきし祭り」を実施し、対象を広げて、多くの方に学びを広めた。また実際に教えていただいたゲストティーチャーを招待し、学びの成果を見てもらった。

児童生徒の姿 (○)、児童生徒による振り返り (◇)

- 身近ではあるが意外と知らない地域の魅力を楽しみながら発見していく姿が見られた。
- 自分たちの学びをどのような形で表現していきたいか、児童の思いを大切にしながら学習を展開してきたことで、主体的に取り組む姿が見られ、学びの充実感や達成感が高まった。
- 地域の行事(盆踊り、佐方八幡神社神楽奉納、神輿、とんど焼き)に進んで参加する姿が見られた。
- ◇これまで盆踊りに行っても踊っていなかったけど、踊れるようになったので来年は踊りたい。ほかの地域の行事にもたくさん参加したい。
- ◇伝えないとなくなってしまうので、知らない人に楽しさを教えてあげたい。

単元名

「阿品台のすてき 見つけ隊！伝え隊！広げ隊！」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎阿品台のすてきを伝えるには、どうすればいいだろう？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●わたしたちのまち阿品台には、どんなすてきがあるのだろう？

【単元の目標】
自分たちが住んでいる町について知り、すてきなところを見つけ、周りの人に広めていくことを通して、地域についての関心を高め、ふるさとを大切にしていきたいという態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・阿品の森サポータークラブ
・阿東っ子応援隊
・阿品モール

活動の概要

生活科の学習のまち探検や、社会科で地域について調べる学習を通して、自分たちが生まれ育った阿品台で知らないことや行ったことがない公園などがたくさんあることを発見した。『阿品台のすてき見つけ隊！』を設定し、身近な町の公園をいくつも巡り、それぞれの良さを考えたり情報収集をしたりして調べて分かったことをまとめたり、伝えたりする活動をした。

★アピールポイント★



＜公園巡り＞



＜阿品の森散策＞



＜プレゼンテーション＞

- ・実際に地域を見学したり、インタビューをしたりする活動を設定し、**児童が自ら課題を発見した**。その後児童が、自分ごととして主体的に活動に取り組んだ。
- ・児童の達成感や満足感の向上につなげるため、調査や活動を通して分かったことを**スライドにまとめてプレゼンテーションを実施**し、他者からのリアクションを受け取ることができるようにした。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 普段何気なく生活している町にも、知らないことや場所がたくさんあることに気付くことができた。
- 阿品台の景色や施設、公園や地域の方など、興味をもったことについてグループで課題解決をし、「阿品台のすてき」が聞き手に分かりやすく伝わるスライドを作ることができた。
- ◇いつも使っている公園は、地域の方やボランティアの方がきれいにしてくれているから自分たちが楽しく遊べるということが分かった。
- ◇地域のいろいろなことが知ることができ、自分たちが住んでいる町がもっと好きになりました。

単元名

阿品のすてき

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

◎ふるさと地域の素敵って何だろうか？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

●阿品のすてきなところって何だろうか？

【単元の目標】自分たちの住む阿品地域のすてきな場所を発見し、それを保護者や地域の方に発信する活動を通して、地域に親しみを持ち地域に関わろうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・市役所市経営企画部プロモーション戦略課
- ・阿品の森サポータークラブ
- ・国立研究開発法人水産研究教育機構水産時術研究所
- ・岩鏡神社飯田宮司
- ・岩鏡神社瀬土総代

活動の概要

地域を探検して、阿品の素敵だと思う場所や素敵だと思う人に出会う。

阿品の干潟を観察したり、西国街道縁の教え地蔵を見学したり、地元の岩鏡神社で神社の歴史を聞いたり、阿品の森で散策をしたり、被爆アオギリ2世の前で集会をしたりする。

その活動を通して学んだことを阿品のおすすめリーフレットにまとめる。そして、阿品のすてきな場所・すてきな人を学習発表会の場で、劇やダンス、呼びかけという形で表現する。

★アピールポイント★



<干潟観察>



<阿品の森・被爆アオギリの前>



<岩鏡神社にて>

- ・国立研究開発法人水産研究教育機構水産技術研究所の方から干潟観察の仕方を学び、阿品の干潟の生き物を実際に観察する活動を通して、地元の貴重な干潟を大切にしようとする気持ちを高めた。
- ・阿品の森サポータークラブの方から、阿品の森を守る活動の意義や森に入る時の心得などを話してもらい学習すると共に地域を支えている人々の存在を認識できるようにした。また、被爆アオギリ2世を植えられた地域の方の平和を思う気持ちに共感し、戦争の恐ろしさを知り平和を築いていこうとする児童の心情を育んだ。
- ・地元の岩鏡神社で宮司さんや総代さんから神社の歴史の話聞き、祭神や神話に関して調べ学習をした。
- ・江戸時代からある教え地蔵・干潟の生き物・岩鏡神社の祭神に関する神話・阿品の森と被爆アオギリの物語をミュージカルという形で表現し保護者に発表した。

児童生徒の姿 (○)、児童生徒による振り返り (◇)

○体験学習や調べ学習をする中で、阿品の素敵などところをもっと見つけたいと意欲を高めた。

◇岩鏡神社は、外にいても木陰があり暑い夏でも行けてすてきだと思った。

◇みんなのために、阿品の森をきれいにしている阿品の森サポーター倶楽部の方が素敵だと思う。実際にその場所に行ってみて阿品はいい町だなと思った。

◇干潟観察では、カニやアサリ、やどかりを見つけ、今度また家族と干潟に行き、知ったことを家族に話して、生き物を見つけない。

単元名

串戸の福祉 ～串戸のまちづくりをしよう！～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎みんなが住みやすい町とは、どんな町だろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●串戸の町にはどんな福祉があるのだろう。

【単元の目標】
自分たちが住んでいる串戸の福祉について、体験活動やインタビューを通して知り、みんなが住みやすい町になるために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・廿日市市社会福祉協議会
・阿品台手話サークル
・点訳クラブあい
・ブラインドサッカーチーム「A Pfeil e 広島」

活動の概要

「福祉って何だろう？」という問いかけから、自分たちが住む場所には、どのような人がいて、どのように生活しているのかについて調べていく中で、「みんなが住みやすい串戸のまちづくりをしよう！」という課題を設定した。手話、点字、ブラインドサッカー体験や保育所との交流を通して、体の不自由な人や幼児などがどのようなことに困るかを考えた。考えたことを生かして、子ども達一人一人が体の不自由な人たちにとって安心安全な生活を送るために自分達ができることについて話し合った。

★アピールポイント★



<ブラインドサッカー体験>

<手話体験>

<保育所との交流>

<点字体験>

- ・廿日市市の団体と連携し、4種類の体験活動を行った。**様々な体験活動を仕組むことによって、体の不自由な人の苦労や努力に児童が気付くことができた。**
- ・ブラインドサッカーの体験を通して、目の不自由な人の立場に立って考え、どのような方法でコミュニケーションを取ればいいのか、相手の気持ちを考えて優しく伝えることなどを学び、**体の不自由な方への理解を深めることができた。**
- ・chromebookのスライドを使って、**ブラインドサッカーについて詳しく調べたり、分かったことをまとめたりして児童なりに課題意識をもち学習に取り組むことができた。**

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 町の問題点や安心安全な生活について考えることで自分たちの町を全ての人にとって暮らしやすい町にしていこうという「まちづくり」の視点をもつことができた。
また、自分の生活と学んだことを結び付けて考え、自分ができることをやっいていこうという意欲をもつことができた。
- 様々な体験活動を通して、目の不自由な人やお年寄りの方などに出会った時にどうすればよいかを一人一人が考え、実行しようという意欲をもつことができた。

単元名

安心・安全なまちづくりのために

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎安心・安全なまちづくりのために自分たちにできることは何だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●地域の人々の防災意識を高めるために自分たちにできることは何だろう。

【単元の目標】
宮園地区の地域の防災の取組についての調査活動や体験活動を通して、日頃からの備えの大切さに気づき、防災に対する意識の向上を図るとともに、自分や家族の命を守るために何ができるかを考えて発信することができる。

【連携諸機関・人物】
・宮園自主防災会
・宮園市民センター
・広島県減災推進課

★学習活動のアピールポイント★



＜防災倉庫見学＞＜各チームでリーフレット作成＞＜クイズ・すごろく・動画等＞ ＜みんなに伝えよう＞

- ・1学期に自主防災会や広島県減災危機管理課の方々のお話から地域の実態について課題を発見し、それを解決するために調査活動や体験活動を行った。収集した情報の中から必要な内容を選択し、発信する目的や伝える相手に合った内容にしようと試行錯誤を繰り返しながらリーフレットにまとめ、3月に地域で行われる防災IN宮園で広く発信するという探究のサイクルを展開することができた。
- ・個々で発見した課題を比較・分類し、整理した内容ごとにグループで活動するという学習形態をとったことで、児童が主体的・計画的に活動した。
- ・社会（自然災害を防ぐ）や国語（キャッチコピーの作成や写真の活用）、家庭科（調理実習）など、他教科で学んだ知識や技能を相互に関連付けた。
- ・調べて分かったことや考えたことを、各グループがリーフレット1枚にまとめ、児童や保護者に配布した。非常食や生活雑貨を使った防災グッズの作り方を動画にしてまとめたり、楽しみながら防災の知識を得られるクイズやすごろくをつくらしたりするなど、相手意識や目的意識をもって表現の仕方を工夫することができた。

児童生徒の成長した姿（○）

- 調べたことやゲストティーチャーの話から得た情報をもとに相手や目的に応じて伝えたいことをリーフレットにまとめることを通して表現力が身に付いてきた。
- 課題の解決に向けて、主体的に情報収集をしたり、発信するための表現活動に取り組んだりすることを通して主体性が身に付いてきた。
- 災害はいつ起こるかわからないからこそ、防災リュックや非常食の準備など、日頃からの備えを呼びかけ、自分や家族はもちろん宮園のみんなの安全を守りたいという意識が芽生えてきた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇自分の身は、まずは自分で守ることの大切さや、備えの大切さ、日頃からの挨拶などでの人間関係の構築が、自分達や地域を守ることに気付いた。
- ◇防災リュックなど、準備をしていない家庭が多かったので、日頃からの備えが大切だし、もっと呼びかける必要があると感じた。
- ◇学校のみなみにクイズをしたり、防災リュックを作ったり、非常食を見てもらったりして、防災について知ってもらえたのが嬉しかった。
- ◇3月の防災IN宮園では地域の方に備えの大切さを実感してもらいたいと思った。

単元名

「まちのすてきを見つけ隊」 ～すてきな人を紹介しよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎「四季が丘」には、どのような「すてき」があるのだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●「四季が丘」の人には、どのような「すてき」があるのだろう。

【単元の目標】
進んで地域の方と関わることで、地域の方の思いや地域のよさに気付き、自分の生活や四季が丘を大切にしたいという思いの向上を図るとともに、仲間と共に協働的に課題を解決し、自分にできることを実践しようとする態度を養う。

【連携諸機関・人物】
・四季が丘市民センター
・井戸端会議
・寿会
・モモのへや
・おはなしポポロ
・四季つ子応援団
・サロン・ド・四季が丘
・見守り隊

★学習活動のアピールポイント★



＜インタビュー＞



＜整理・分析＞



＜発表会＞

- ・地域の様々な分野（福祉・交通安全・学習支援等）で活躍しておられる方について、市民センター長さんから情報を集める活動を単元の始めに仕組んだことで、**興味・関心を広げることができた。**
- ・児童の興味・関心に応じてチームを編成し、それぞれのチームが**主体的に計画を立て、インタビュー活動を行った。**
- ・インタビューで得た情報をチーム内で**思考ツールを用いて整理・分析したり、ほかのチームと比較したりすることで、地域の方の魅力に迫ることができた。**
- ・地域の方の魅力が伝わるように、**スライドや原稿を作成し、他学年や地域の人たちへ発表することができた。**

児童生徒の成長した姿（○）

- 普段何気なく接している地域の方が、地域や地域に住む人々のために尽くしておられることに気付くことができた。
- ICT（思考ツール、録画、スライド作成等）を活用して、情報収集や整理・分析を行うことができた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇地域の方は、自分たちのことを考えていろいろな活動をしてくださっていることに気付いた。これからは、地域の方に感謝の気持ちを伝えていきたい。
- ◇自分たちが大きくなったら、今地域の方がしてくださっている活動を引き継いでいきたい。

単元名

ふるさとの良さを発信しよう！
～HIT 広島観光大使～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさとを大事にするとはどういうことなのだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●佐伯地域に人を呼び込むためにはどうしたらよいだろうか？

【単元の目標】
ふるさとの良いところを見つけ、それを他の地域の人に知ってもらうために、自分たちには何ができるのかを考えて実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・友和市民センター
・地域の見守り隊の方

★学習活動のアピールポイント★



< 地域探検 >



< 公園の花植え >



< ポスター制作 >

- ・ 住み慣れた町を題材として設定し、地域探検や花植えなどの活動を行うことで、これまでの経験で知っていたことや活動を通して得た発見が学びの材料となり、課題に対して主体的に取り組むことができていた。
- ・ ふるさとの良さをポスターで発信することで、ふるさとの活性化に貢献していることを実感できるようにするため、広島県観光連盟の「HIT 広島観光大使」制度を活用し、活動のゴールに観光大使任命状や名刺をもらうことで、自己肯定感や自己有用感向上につながるようにした。

児童生徒の成長した姿 (○)

- ふるさとの魅力について知り、ふるさとを大事にしていこうとする意欲が向上した。
- グループ活動では、自分の役割や責任を果たしつつ、協働していく力を養うことができた。
- ポスター制作では、タブレットを活用し、人の目にとまるデザインを考えたり、必要な情報を取捨選択してまとめたりすることができた。

児童生徒による振り返り (◇)

◇佐伯地域には豊かな自然があるが、それだけではなく、地域の人が営むお店がたくさんあるため、ぜひ他の地域の方にも訪れてほしい。

単元名

「サンフラワープロジェクト」
～「津田のひまわり畑」をもちあげよう～

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎津田の魅力を多くの人に知ってもらうには、どうすればよいか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●津田の町には、どんな魅力があるのだろうか？
●津田のひまわり畑の魅力をどのように発信していけばよいのだろうか？

【単元の目標】
地域の魅力を再発見し、地域内外に効果的に発信することを通して、地域活性化のための課題を解決し、自分の考えをまとめ伝える資質や能力を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・佐伯商工会青年部
- ・津田商店街を創る会
- ・津田市民センター
- ・あさはらまちづくり交流センター
- ・学校運営協議会
- ・NHK広島放送局
- ・中国新聞社

★学習活動のアピールポイント★



<ひまわり種まき>



<ひまわり畑写真コンクール>



<リベンジ・サンフラワープロジェクト>

【概要】

令和4年度から、過疎化が進む地域の活性化のために佐伯商工会青年部を中心に休耕田を活用した「津田のひまわり畑」。しかし令和5年度は原因不明で開花せず、青年部も地域も落胆した。そこで、今年度は種まきから6年生を中心に全校児童が関わり、開花に至るまで青年部と連携し津田の魅力を再発見をすると共に、地域内外への発信を行った。

- ・地域活性化のためにひまわり畑を盛り上げようと、佐伯商工会青年部と連携し、6年生を中心に全校児童と保護者有志が参加し春に種まきを行った。※NHK 広島放送局、中国新聞社取材
- ・開花した後、市から貸与されているタブレット端末を用いて、全校児童がひまわり畑の写真撮影を行った。撮影した写真は、プロカメラマン、児童・教職員、学校運営協議会、保護者、市民センター来訪者等に審査していただき、各賞を決め表彰した。児童の写真は「津田商店街を創る会」と連携し、各店舗に掲示した。（津田商店街まるごとミュージアム構想）※NHK 広島放送局、中国新聞社取材
- ・「昨年度はなぜ開花しなかったのか？」「もっとたくさん咲かせるためには？」というテーマで6年生が探求したものをまとめ、次年度に向けて商工会青年部の皆さん、学校運営協議委員、このプロジェクトを引き継ぐ4・5年生に向けてプレゼンテーションを行った。（リベンジ・サンフラワープロジェクト）※中国新聞社取材

児童生徒の姿（○）

- 「地域貢献」という大きな目標に向けて、自分たちがなし得ることを懸命に取り組む姿が見られた。
- 学校運営協議会、津田商店街、佐伯商工会、市民センター等を巻き込む大きなプロジェクトになり、児童たちも達成感を得ていた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇郷土の良さに改めて気づいた。これからも津田が盛り上がると嬉しい。
- ◇次年度もこの活動を在校生に受け継いでほしい。

単元名

吉和の宝を見つけ、発信しよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎10年後、吉和がどんな地域になればよいだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●吉和の宝は何だろうか。

【単元の目標】
・吉和地域の宝（魅力）について理解を深め、その魅力を他者に分かりやすく伝える方法を考え、発信することを通して、地域の一員として地域の活動に取り組もうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・農事組合法人吉和の方（増田さん）
・吉和ラフリーズの方（川崎さん 齋藤さん）
・地域の方々

活動の概要

・吉和の魅力の一つである農業に注目し、田植え活動やいちごの苗植えを通して得た情報から、新たな気付きや発見を3～6年の縦割りグループでスライドにまとめた。そして作成した資料を150周年記念行事の際に地域の方に上映公開することで、学習の様子を地域に発信することができた。

★アピールポイント★



＜田植えの様子＞



＜いちごの苗植えの様子＞



＜縦割り班での活動＞

- ・農業体験という実体験に基づく学びができたことで、農業の仕組みや働く人の願いを体感的に理解することができた。また、自然条件と向き合うことで、計画と実行の調整が必要となり、児童自ら課題発見・調整等の学びのサイクルを身に付けることができた。
- ・グループは3～6年の縦割りで構成し、高学年が3・4年生にスライドの作成方法や発表の仕方を教え合える学習形態の設定をした。
- ・150周年の記念行事の際に校内に作成した資料を掲示し、地域の方に見てもらおうというゴールを設定することで、相手意識をもって資料を作成することができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の方へのインタビューや農業体験を通して、吉和地域の農業について詳しく学ぶことができた。
- ◇吉和の農業を支えている人たちの努力や思いを知ることができた。これからも地域の宝を大切にし、吉和の農作物を食べるなどしていきたい。

単元名

なつが やってきた・いきものと なかよし
たのしいあき いっぱい

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎身近な自然は、自分たちにどのような恵みをもたらしているのだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●自分たちの身の回りには、どのような自然があり、どのようなよさがあるのだろうか。

【単元の目標】
○身近な自然に進んで関り、美しさやよさを見付けたり、変化に気付いたりできる。

【連携諸機関・人物】
・学校近くにお住いの農家の方
・三槍社

★学習活動のアピールポイント★



〈れんげで花束を作ろうかな〉 〈どんぐりいっぱい拾うぞ!〉 〈葉っぱっておもしろいな〜〉

- ・れんげ畑は、学校からとても近い場所にあるため、年間を通して気軽に観察に行き変化を見付ける事ができる。
- ・どんぐりや拾った落ち葉で見立て遊びをし、国語科の「なににみえるかな」の話合い単元に生かすことができる。

児童生徒の成長した姿 (○)

児童生徒による振り返り (◇)

○れんげがきれいに咲いていた場所が、全く印象の違う田んぼになっていたり、青い稲が重く実ったり、刈り取った後に更にひこばえが生えたりして、見るたびに変わる様子に驚いていた。
○生活科で実際に経験したことを国語科の学習に生かすことができ、児童が話したり書いたりする素材をもって学習に臨むことができた。

◇1本の稲穂にたくさんのお米が実って、びっくりしました。
◇神社にたくさんのどんぐりが落ちていて、また拾いにいきたい。

単元名

みんなでつかう まちのしせつ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎自分たちの街の暮らしを豊かにするためには、何が必要だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●まちにはどのような施設があり、自分たちの生活とどのようにつながっているのだろう。

【単元の目標】

○公共施設の見学を通して、それらのよさを感じたり、働きを捉えたり、それらを支えている人々がいることに気付く。また、公共施設やそこで働いたり活用したりしている人々を大切に思うことができるようにする。

【連携諸機関・人物】

- ・まるくる
- ・大野図書館
- ・大野東市民センター
- ・大野学校給食センター
- ・施設の職員の方々
- ・各地区の区長さん
- ・学校支援ボランティアの方々

★学習活動のアピールポイント★



＜大野給食センター＞



＜大野東市民センターのかまどベンチ＞



＜大野図書館内の書庫＞

・どこにどんな施設があるのかを校区地図に示すことで、身近な場所にたくさんの施設があることを知り、「行きたい、見たい、知りたい。」という関心・意欲をもたせることができた。生活を支えていることに気付かせることができた。

・それぞれの施設で、備え付けてある物を見たり、話を聞いたりすることで、まちの人みんなが楽しく利用しやすくなるように、様々な工夫がなされていることに気付かせることができた。

・まるくるや市民センター等、災害の時の避難場所になっていて、まちの人達にとって安全で安心できる、暮らしを支える場であることに気付かせることができた。

児童生徒の成長した姿（○）

○自分たちが生活している周りには多くの施設やお店があり、それらにかかわって働く人々がいることに気付いた。

○公共の施設やお店ごとに、地域とのつながりや利用者のことを考えた工夫がされていることを知った。

児童生徒による振り返り（◇）

◇給食センターには安全な給食を作るために、野菜の洗い方など、たくさんの決まりがあることが分かった。

◇大野東市民センターは、災害が起きた時にみんなの命を守ることができるような工夫がされていた。

単元名

大野のすてきな人を見つけよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 自己の生き方を考えていく力を育成するために、どんな学び方をしていくとよいのだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● ふるさと大野で、大野のために活動しているすてきな人とはどんな人だろうか。

【単元の目標】

○ 見学や体験活動を通して収集した情報を整理し発信することを通して、地域よさを再認識し、人との関わりを大切にしていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・ 廿日市市社会福祉協議会
- ・ 手話サークル
- 「かざぐるま」
- ・ 点訳グループ
- 「てのひら」
- ・ 特定非営利活動法人友志人福祉会

★学習活動のアピールポイント★



< 手話体験 >



< 点字体験 >



< 車椅子体験 >

- ・ ボランティア活動に携わっている方や障害をもった方から実際に話を聞いたり、体験活動をしたりする機会を複数回設けることで、ボランティア活動を身近に感じたり、自分たちでもやってみたいと思えるよう計画した。
- ・ 児童が主体的に課題を見つけ、意欲的に調べ学習に取り組むことができるよう、4つの体験活動の中から、より調べたいことを選択できる学習形態にした。また、そのことを新聞にまとめさせた。
- ・ 体験活動を通してボランティア活動をしているすてきな人に気付くとともに、自分たちができる活動を見つけさせ、実際に取り組んでいった。

児童生徒の成長した姿 (○)

- ボランティアの方や障害をもつ方に実際に触れ合うことで、ボランティアに興味をもつことができた。
- 新聞にまとめることで、情報を整理・取捨選択し、工夫して表現する力を身に付けることができた。
- 身近な点字やUDに興味をもち、本やインターネット調べ、知識が広がった。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇ 障害のある人に出会ったら、習ったことを生かして、助けてあげたいと思いました。
- ◇ 家にある電化製品にたくさんの点字があって驚きました。ほかにも見つけたいです。
- ◇ 自分もすてきな人になれるように、がんばりたいです。

単元名

災害を調べよう・災害に備えよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎「命を大切に作る」ためにできることは何か。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●「自助」「共助」自分にできることは何だろう。

【単元の目標】

○自分たちが住んでいる地域にはどんな災害が起こりうるのか、廿日市市ではどのように備えているのかを知ることによって、自分たちがどのように災害に備えればよいかを考える力を育てる。

【連携諸機関・人物】

・廿日市市役所大野支所
防災担当者
(三浦勇二さん)

・広島県危機管理監
みんなで減災推進課 (担
当者2名)

・各地区区長、防災担当者

★学習活動のアピールポイント★



＜出前講座の活用＞



＜発表（防災の取組）＞



＜地域人材の活用＞

・避難の仕方や、避難グッズに必要なものを考える学習など、出前講座を活用したことで児童が興味をもって学習に取り組み、理解も深まった。

・地域の自主防災組織の方々と連携して、実際に避難場所を見学したり、自主防災組織の方々に取組について話を聞いたりすることで、自分が住んでいる地区のことを詳しく学習できた。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 学習したり、調べたりしたことをスライドにまとめることで、情報収集する力、集めた情報を整理する力がついた。
- 災害について調べて分かったことをスライドにまとめクラスの中で、地域の防災の取組をスライドにまとめ3年生に発表することで、改めて防災に対する理解が深まった。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇大野地域でもこれまで多くの災害が起こっていることが分かった。
- ◇地域で様々な防災の取組をしていることが分かった。
- ◇災害に備えて防災グッズを準備しておきたい。
- ◇地域に住む一人として、災害が起こった時に、どのような行動をとればよいか分かった。

単元名

「廿日市の『味力』伝え隊」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎わたしたちは地域にどのように関わっていけばよいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●自分たちの地域を活性化するために私達ができることは何だろうか？

【単元の目標】

- 地元の食材を調べることを通して、地元の食材のよさに気づく。
- そのよさを生かしたメニューの開発・発信を通して、大野の良さを再発見する。
- 探求的な学習に主体的に取り組むとともに、友だちと協力し、積極的に地域の人々に関わろうとする

【連携諸機関・人物】

- ・ 深江あさり漁場組合：泉さん

★学習活動のアピールポイント★



＜あさり掘り体験＞



＜栄養教諭へのインタビュー＞



＜栄養教諭へのプレゼンテーション＞

- ・ 意欲的に取り組めるよう、学習の導入段階で、栄養教諭と連携して廿日市の食材について考え、最終的に給食メニューに取り入れてもらおうという活動にした。
- ・ 作成途中に、栄養教諭からアドバイスをもらったり、疑問に答えてもらったりする時間を設定することで、専門的な知見を踏まえてメニューを考えられるようにした。
- ・ 児童が、主体的に計画・実行できるように、興味・関心のある食材を自ら選択できる学習形態をとった。

児童生徒の成長した姿（○）

- 学習の導入段階で、栄養教諭と連携して廿日市の食材について考え、最終的に給食メニューに取り入れてもらおうという活動にすることで、意欲をもって地域の食材の魅力を調べたり、オリジナルメニューを作ったりすることにつながった。
- 作成途中に、栄養教諭からアドバイスをもらったり、疑問に答えてもらったりする時間を設定することで、専門的な知見（栄養バランスや食材に適した調味料など）を踏まえてメニューを考えられるようにした。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇調べ学習を進める中で、廿日市の食材の素晴らしさを感じた。このことを、もっと発信していきたい。
- ◇廿日市産の食材だと知らなかった物が多くあったから、自分たちの考えたメニューを使って多くの人に知らせたい。

単元名

「大野の今を見直そう！」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
 ◎地域のよさに気づき、地域に愛着がもてるようにするにはどうすればよいか。

【連携諸機関・人物】
 ・大野歴史ガイドの会

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
 ●大野の町の魅力は何だろう。

【単元の目標】
 ○大野にある様々な神社や史跡について知ることを通して、大野の歴史・自然・文化を大切にし、今まで継承してきている人々の努力や苦労や願いに触れ、これからの自分の生き方について考える学習をする。

★学習活動のアピールポイント★

<中山峠>



昔の人は、この山道を生活道として活用していたことを知り大変さを実感し、トンネルを作るという知恵に感心していた。

<蓮華寺>



大野東小学校の前身であり、入口にある鐘は、戦時中に外国に行っており、戦後まもなくして大野に戻ってきたことに驚いていた。

- ・地域の歴史ガイドの会と連携し、学級ごとにガイドさんと一緒に史跡を歩いて回りながら、それぞれの史跡で詳しく説明をしていただいた。
- ・社会科の歴史学習における理解を深めることができた。
- ・道徳「天下の名城をよみがえらせる」という資料において歴史的建造物を大切にし、文化を継承することの苦労を学んだ。史跡を大切にしたり文化を継承したりしていくことの意義を考えさせた。
- ・調べた事を、ICT 機器を用いてまとめた。見たり聞いたりして分かったことだけでなく、大野の歴史を知ることを通して感じたことや考えたことも書き、交流し合った。
- ・自分たちが感じた大野の魅力を他の人たちにも伝えようとクイズラリーを開催したり、実際にその場所に行けるようなマップを作ったりした。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 大野にはたくさんの史跡があることを知り、自分たちも史跡を守りたいという思いをもった。
- 本校の前身である蓮華寺の鐘が、第2次世界大戦後に外国で見つけたことに驚き、社会科の戦時中の生活の様子についての学習で聞いた話が身近でも起こっており、より地域の歴史について深く興味をもつことができた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇今まで当たり前のように過ごしていた故郷大野に自分の知らない魅力が隠されていることに気づき驚きました。
- ◇自分たちが感じた魅力を他の人たちにも伝え、みんなで大野を大切にしていきたいです。

単元名

「大野のステキを見つけよう
～大野の達人から学ぼう～」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎大野にはどんなステキがあるのだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●わたしたちの周りにはどんなステキな人がいるのだろう。

【単元の目標】
大野の達人から学ぶことを通して、大野の伝統文化に関心をもつとともに人との関わりや大野の良さについて考え、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・妹背製菓 伊藤 彰二さん
- ・烏神太鼓メンバーの皆さん

★学習活動のアピールポイント★

＜妹背製菓 和菓子作り体験＞



＜烏神太鼓 演奏体験＞



- ・2年生の時の町探検のことを思い出したり、地域に伝わる伝説についての話を聞いたりして、大野にはステキな伝統文化があることに気付き、関心を高める。
- ・地域の伝統文化に関わる人の思いや願いを聞き、体験活動を通してその素晴らしさを知ること、伝統を大切にしたいと考える態度を育てる。
- ・お世話になった達人たちに、学んだことや考えたことを手紙にして届ける。
- ・大野の伝統文化のステキなところを伝えるために、グループで壁新聞づくりに取り組む。

児童生徒の成長した姿（○）

- 自分たちの住む大野の町を大切にしていこうとする意欲が高まった。
- 大野に残る伝統文化を守っていこうとする態度が育った。
- 学んだ伝統文化以外のものにも興味をもって調べたり、体験しようとしたりする姿が見られた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇伊藤さんは和菓子を簡単そうに作っていたけれど、実際に作ってみると難しかった。長い時間練習したことや、誇りをもって作っていることが伝わった。
- ◇和太鼓で大きな音を響かせるのにはコツがあることが分かった。教えてくださった達人たちは伝統を守っていくために子どもたちが楽しんで体験できるような工夫をたくさん考えているんだと思った。

単元名

宮島島民の防災意識を高めよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎10年後の宮島のまちはどうあるべきか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●宮島島民の防災意識を高めるためにはどうしたらいいのか？

【単元の目標】

宮島の防災の取組について調べ、よさや課題を整理することを通して、宮島の防災にかかわる人々の工夫や思いに気づき、宮島島民の防災意識を高めるために自分たちに何ができるのかを考え、進んで地域社会にかかわって行動しようとする。

【連携諸機関・人物】

- ・広島県危機管理監みんなで減災推進課
- ・宮島支所建設グループ
- ・日本赤十字広島看護大学のボランティア

★学習活動のアピールポイント★



< 講義 >



< 見学 >



< 話し合い >

- ・ゲストティーチャーの話聞くことで、広島県や廿日市市の防災について知ることができ、自分たちがもっと知りたいことややってみようと思うことができた。
- ・宮島にある防災施設を見学することで、防災のことをもっと身近に感じる事ができた。さらに、景観を守るために景色になじむ石を選んでダムを作っているなどの宮島ならではの工夫を知ることで、宮島の防災にかかわる人々の思いに気づくことができた。
- ・日本赤十字広島看護大学のみなさんとカルタ作成をしたり、ハザードマップを一緒に見たりした。大学生のみなさんも話し合いに参加してくれたので、活発に話し合いをすることができ、色々な視点で意見交流をし、自分の考えを広げることができた。

児童生徒の成長した姿 (○)

- ゲストティーチャーや見学を通して、宮島の防災を自分ごととして捉え、自分たちに何ができるのかを真剣に考えることができた。
- 大学生のみなさんと活動することで、積極的に自分の考えたことを伝えたり、色々な視点の意見を聞いて自分の考えを広げたりすることができた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇見学を通して、宮島の景色を守るための工夫があることがわかりました。宮島のみなさんの防災意識を高めるためにどんなことができるのかを考えていきたいです。
- ◇大学生のみなさんとハザードマップの色塗りをしました。海沿いの地域は様々な災害の危険があることがわかりました。

単元名

世界遺産のあるヒロシマと宮島から学ぶ
～持続可能なまちづくりの提言～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさととはどういうものだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●ふるさとのために何ができるだろうか。

【単元の目標】
・「ヒロシマ学習」を通して、情報収集の方法、実地調査の計画立案方法、発表の準備手順を理解し、発表のスキルを身に付ける。
・「宮島学習」を通して、ふるさと・宮島を中心にふるさとを見つめ直すことで、地域との関わりを捉え直す。

【連携諸機関・人物】

- ・広島平和記念資料館
- ・被爆体験講話講師
- ・市役所（宮島支所）
- ・厳島神社
- ・宮島観光協会
- ・宮島表参道商店街
- ・宮島伝統産業会館
- ・宮島水族館 他

★学習活動のアピールポイント★



＜被爆体験講話＞



＜ヒロシマ学習クラス発表会＞



＜宮島訪問インタビュー＞

- ・広島 の 2 つの世界遺産についての学習を通して、ふるさと廿日市の「持続可能なまちづくりの提言」を考えた。
- ・大きな課題は提示し、その解決のための新たな課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ等の仮説検証の方法を生徒自身が考えて取り組んだ。
- ・課題解決のために、計画を立て、実際に現地を見学したり、訪問インタビューをしたりする活動を設定し、自分ごととして主体的に活動に取り組んだ。
- ・調査や活動を通して分かったことをクロムブックのスライドにまとめ、各クラスで発表した後、文化活動発表会で作品展示としたことで、お互いの発見を共有するとともに、他者へ発信することができるようにした。
- ・自分たちで調査方法を考え、施設訪問や現地調査、訪問インタビュー等、事業所や人材を決めて取り組み、地域の強みを生かした活動になった。

児童生徒の成長した姿（○）

- 自分たちの疑問から課題を設定することで、より主体的に学習する姿が見られた。
- 被爆体験者の話を直接聞いたことで、「原爆」が遠い昔のことではなく、今、起こり得る身近なものとして考えるようになった。
- 自分達で「廿日市市への提言」を考えるというコンセプトで取り組んだことで、単なる調べ学習とは違い、活動に主体的に取り組む姿や本気で課題を解決しようとする姿が見られた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇今回の学習で今まで気付かなかった地域の方々廿日市のために頑張っていることが分かるようになった。
- ◇班で分担してスライドを作ったので、内容を充実させることができた。
- ◇新たな事実や課題を知ったことで、廿日市市の様々な課題に対して、真剣に取り組まなければならないと考えるようになった。

単元名

「ふるさと宮島を知ろう」
～校外学習を通して～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさとである廿日市市にはどのような魅力や課題があり、改善策は何か。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●宮島にはどのような魅力や課題があり、自分たちができることは何か。

【単元の目標】ふるさと廿日市市にある宮島について、現地における調査・考察をすることで見つめ直し、地域との関わりを捉え、課題を発見し、課題解決のために自ら計画を立てて実施し、検証・改善していく力を身に付ける。

【連携諸機関・人物】

- ・ 厳島神社
- ・ 宮島水族館
- ・ 宮島伝統産業会館

活動の概要

学習テーマを①神社・資料館について、②伝統産業について、③宮島の自然について、の3点に絞り、学級内で役割分担し、自分たちの選択したテーマについて事前調査し、発見した課題について現地での調査を通して追究し、まとめたことを発表する。

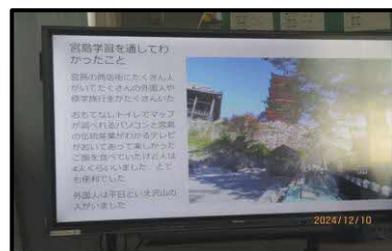
★学習活動のアピールポイント★



<事前学習のまとめ>



<現地調査の様子>



<事後学習の様子>

- ・ 「はつかいちクイズ」に挑戦し、自分たちの住んでいる廿日市市についてどのくらい知っているか確認した。最も有名である宮島について、知っているようで知らないことも多いということを実感し、どのような視点で調べたらよいか考えた。
- ・ テーマを絞ったことで、各班が違った視点で調査を行うことができた。
- ・ 班内の役割を分担したことで、互いの調査方法や調査内容が的確か、確認しながら事前学習を進めることができた。
- ・ 事前調査の結果をスライドにまとめることで、課題が明確となり、目的意識を持って現地調査に赴くことができた。
- ・ 杓子作り体験では、講師の方から杓子の歴史や現代の用途などについて、お話をうかがうことができ、特に伝統産業についてより理解を深めることができた。事前学習のまとめと比較しながら事後学習のまとめをスライドで表現したことで、生徒自らが変容を見取れていた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 班ごとに課題設定し、調査項目を分担して、見通しを持って計画的に調査に当たることができた。
- 事前学習と体験学習後の学びの深まりを比較し、新たに気付いた視点で資料を作成して発表することができた。
- ◇宮島の歴史について調べていく中で、社会科で学習したこととのつながりを感じるがあった。宮島の歴史ある建物や文化を守るためにできることを考え、廿日市市以外の人に魅力を伝えたいと思う。
- ◇宮島と言えば神社や鳥居というイメージが強いが、自然環境について調べてみると、固有種が存在していることや、保護活動が続いていることが分かった。

単元名

「ふるさと学習Ⅰ（阿品・阿品台）防災学習」
「ふるさと学習Ⅱ（宮島）」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎地域の課題を解決し、魅力を高めるために何ができるだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●私たちの住む廿日市市はどのような特色を持っているのだろうか。

【単元の目標】

自分たちが住んでいる街について知り、課題を発見するとともに解決方法を考え、地域と主体的に関わっていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・日本赤十字広島看護大学
- ・廿日市市地域振興課
- ・国土交通省中国地方整備局
- ・廿日市市健康福祉総務課
- ・廿日市市福祉協議会
- ・阿品台自主防災
- ・NHKアナウンサー室

活動の概要

- ・阿品台地区の防災について、連携機関からの講義及びデジタル機器を活用して情報収集し、まとめ、まとめの交流を通して協働的に学んだ。地域の防災活動と連携して学習内容の発表を行った。
- ・宮島学習では、個人テーマを設定し、解決するためのフィールドワークを通して、地域の良さや課題を再発見した。

★アピールポイント★



<防災学習>



<ことばで命を守る NHK>



<地域の方と防災クッキング>

- ・防災について課題に対応した複数のグループを編成し、主体的・協働的に計画・実行できるような学習体制を整えた。
- ・地域の方との交流や、地域の防災力の講話、地域の避難場所や備蓄品の見学を通して、学びを深めることができた。
- ・学習したことをプレゼンテーション資料にまとめて校内で発表するとどまらず、地域で実施された防災訓練においても発表した。地域との連携を図ることにより、中学校での学習内容について、地域に広げることができた。
- ・NHK アナウンサーと「ことばで命を守る」をテーマに、命を救うために地域でできる事を考え、防災への意識を高めた。
- ・阿品台自主防災と連携し、地域の方を講師として招いて、災害時に地域の方と協力してできる防災クッキングを実践した。
- ・地域の宮島観光ガイドの方から、宮島の歴史や観光、自然などについて幅広いお話をうかがい、個人テーマを設定し実際に宮島を見学したり体験をしたりする活動のなかで地域の良さや課題を再発見することができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 多くの地域の方や専門家に多角的に講演や実演をしていただくことで、実際の災害時にはどのように行動すべきか主体的に考えることができた。
- 個人でテーマ設定をし、宮島について幅広い分野から課題設定することで、今まで知らなかった宮島について深く学ぶことができた。
- ◇実際に災害時に市民センターに避難することや、どのように生活するのか、備蓄品が少ないので持ち寄るべきであることが分かった。
- ◇防災学習を進めていくと、避難時に中学生にできることがあると分かった。災害時に力になれるらいいと思う。

単元名

～宮島の魅力を発見し、
伝えられるようになろう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎自分が住んでいる地域に誇りを持つとは？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●ふるさと宮島にはどのような魅力があるのか。

【単元の目標】
ふるさと宮島について調べ、魅力を発信する活動を通して、ふるさと宮島への誇りをもつ

【連携諸機関・人物】
・ 厳島神社
・ 宮島水族館
・ RCC文化センター
船附洋子先生
・ 廿日市市宮島まちづくり交流センター

★学習活動のアピールポイント★



＜講演会を聞く＞



＜現地調査＞



＜班ごとの発表＞

ふるさと宮島の歴史や観光地としての特色を調べていくことで、新たな魅力を発見・発信できるように本単元を設定した。

学習活動としては、①専門家の講話を聞き、テーマを設定する。②テーマごとに ICT を活用して事前調査を行う。③実際に現地に赴き調査・インタビューを行う。④班ごとにスライドを作り、別のテーマについて調べた班やクラス・学年の前で発表をする。⑤学習のまとめとして400字のレポートを作成し、中国新聞のヤングスポットに投書する。⑥学年代表が、台湾の学校にふるさと宮島について紹介する。という活動を行った。

児童生徒の成長した姿（○）

- 慣れ親しんだ宮島であるが、今まで知らなかった宮島の歴史や伝統を知り、改めて宮島の魅力に気づき、魅力を発信することができた。
- テーマに基づいて、集めた情報を宮島の魅力がより伝わりやすくなるように整理し、工夫してまとめることができた。
- 相手にわかりやすいスライドになるよう ICT を活用し、工夫して作る事ができた。

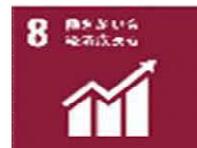
児童生徒による振り返り（◇）

- ◇現地調査をしてお店の商品のすばらしさや工夫点をよく知ることができました。他の人の発表で知らないこともたくさん知ることができました。今回学んだことを忘れずに宮島を大切にしていきたいです。
- ◇グループの団結や話し合いを大切に頑張りました。時間はかかったけど、スライドや原稿を作成するときに調査をしたことを生かすことができました。
- ◇自分が知っていることは宮島の一部だと感じました。今まで興味があっても調べなかったことがありましたが、今回の学びを機に、これからはきちんと調べてふるさとについてもっと知りたいと思いました。

単元名

ふるさとの仕事を調べよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

◎地域のために自分自身ができることは何だろうか？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

●地域にある職場は、地域のためにどんなことをしているだろうか？

【単元の目標】

地域にある職場に関する探究活動を通して、働く人々の思いを理解し、ふるさとのために自分たちが今後できることを考え、行動しようとする態度を育てる。

★学習活動のアピールポイント★

- ・地域で働く人々の思いや願いに触れさせるため、生徒に配布された「WORK はつかいち」を活用した。日頃、意識することの少ないであろう地元の企業で、どんな人たちがどんな思いで働いているかを考えさせる機会にできた。
- ・Google スライドを使ったまとめ作業や全体への発表など、ICT を活用して授業を展開していくことで、どのようにすればより相手にわかりやすくその仕事の内容や魅力、働く人々の思いを伝えることができるのかなどを考えさせることができた。
- ・地域にある職場について知ることで、次年度に行われるキャリアスタートウィークに対する興味・関心・意欲を高めることができた。



<クラス内発表>



<まとめ作業>



<実際に生徒がまとめたスライド>

児童生徒の成長した姿 (○)

- 地域にある職場、そこで働く人々の思いや願いについて知り、次年度のキャリアスタートウィークに向けて、働くということについて考えを深めた。
- 普段何気なく過ごしている廿日市の生活を支えている人々や企業があるということに目を向けることができた。
- ICT を活用した発表を行う中で、聞き手により分かりやすく伝える工夫を考えることができた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇いろいろな職業について調べて、街で見えているところ以外にも見えないところで働いている仕事もいっぱいあるとわかり、廿日市にある仕事についてもっと知りたいと思った。
- ◇いつも通っている病院の仕事のことや、いつも飲んでる牛乳がこの会社で作られていることを知れた。よく知っている会社についてもっと知れてよかった。
- ◇市役所で働いている人は、住民のことを知ったりやりがいをもって仕事をしたりしていて、カッコいいと思った。

単元名

地域学習 佐伯の魅力を再発見しよう
～津田商店街の活性化へ向けて～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】

◎これからも佐伯が住み良い町になるにはどうしたらよいらろう。

【単元を貫く問い】 ●私たちの住む佐伯はどのような特色を持ち、その特色をどのように生かしているのだろうか。

【単元の目標】

佐伯（津田商店街）の魅力や良さを再発見し、地域の課題解決や活性化について考える。

【連携諸機関・人物】

- ・倉田商会 ・佐伯支所地域振興室
- ・ナガタストア ・佐伯醤油
- ・ONIPOTANDASS ・谷口商店
- ・カドヤパン ・バナライフこの
- ・津保美堂 ・廿日市市福祉協議会
- ・阿品台自主防災 ・NHK アナウンス室

活動の概要

- ・津田商店街の活性化へ向けて、中学生の目線で、地域活性化へ向けて具体的な提案をする。そこで、地域活性化の担い手として活躍されている人に焦点を当て、インタビューを通して、働く意義や社会に必要な資質や能力について考える。
- ・インタビューによる情報等を ICT 機器を活用してまとめ、まとめの交流会や文化祭展示を通して、協働的な学び合いを創り上げた。さらに、地域活性化への提案として、Instagramへの投稿記事を作成し、地域の担い手の一翼を担う教育活動につなげた。

★アピールポイント★



<インタビュー>



<地域活性化へ向けた発表>



<文化祭における企画展示>

- ・津田商店街の活性化に尽力している方々から、地域が抱える課題をふまえて問題提起がなされ、その課題を自分事としてとらえさせ、具体的な提案づくりにつなげる学習活動とした。
- ・地域の方とのインタビューを通じての交流から、単なる事業所の紹介にとどまらず、働く人の生きざまに焦点を当てた情報収集により、生徒自身の将来の夢（職業）に必要とされる資質や能力は何かを考えさせた。
- ・地域の方々を迎えての学習発表会やプレゼンテーション資料による校内展示を行い、さらに、生徒自身の適性を把握させた上で職業発表会と実施し、Instagramによる津田商店街の情報発信することにより、地域貢献の一翼を担う活動とした。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の担い手の方々からの課題提起により、担当したグループ内で検討され、生徒目線での提案が出された。
- ◇働く方々の生き方に着目したインタビューにより、働く意義や中学段階で身に付けるべき資質、能力の必要性を学ぶことができた。また、Instagramへの投稿作業により、ICT等の効果的活用法を習得することができた。
- ◇津田商店街の方々が地域の活性化のために協力し、努力されている姿を知ることにより、地域のために何ができるのかを考えるようになった。また、今回学んだことを生かして、次年度の職場体験学習に臨みたい。

単元名

自分を磨くⅡ
～なりたい自分とこれからの生き方～

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 自分らしく生きるとは、ということだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● 自分の特性やよさを活かして生きていくために、大切にしていきたいことは何だろう。

【連携諸機関・人物】

- ・吉和支所
- ・梶広建設
- ・クヴェーレ吉和

【単元の目標】

「働く」ことを通じて、自分の特性やよさについて考え、なりたい自分に近づくために、今できることを考え、実践しようとする態度を育てる。

★学習活動のアピールポイント★



<身近な働く人へのインタビュー>



<職場体験学習>



<修学旅行先で働く人にインタビュー>

・職場体験学習は、「自分の特性やよさについて考え、これからの生き方を考える」活動と位置づけた。活動前に自分の特性について考え、それをより伸ばす・克服するための個人目標を立てたことで、主体性をもって活動に取り組んだ。「他者に言われてから動くことが多いので、手が空いた時には『何かやることはありますか』と自分から聞けるようにしたい。」という生徒の意見があった。

・身近な人や修学旅行先でも働く人にインタビューを行い、多様な職業観に触れ、なりたい自分と働くことを関連付けながら考えることができた。

児童生徒の成長した姿 (○)

○単元当初は「なぜ働くのか」という問いに対して、「お金を稼ぐため」「人のため」という回答が多かったが、活動を通じて「得意なことや好きなことを働くことに活かしながら自分らしく生活していくため」のように、働くことと自己実現を結び付けた考え方をする生徒もいた。

児童生徒による振り返り (◇)

◇体験場所が興味のある土木系だったから楽しかったけど、想像以上に大変だった。道路の掃除や土台を組み立てる作業を手伝い、僕が通っている道は、多くの人の努力で安全に作られていることが分かった。僕も将来、地元の人が安心して暮らせるような町づくりに貢献したい。

◇将来の夢はまだ決まっていないけど、好きなことに関わる仕事はやりがいがあって楽しそうだから、それに関わる勉強やコミュニケーション能力などを今のうちから身に付けていきたい。

単元名

「大野元気プロジェクト」志II
安心して住み続けられる大野をめざして

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)
◎大野に住み続けようと思ってもらうにはどうすればいいだろう。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)
●すべての年代の人にとって住みやすい町づくりとは。

【単元の目標】
大野の福祉やインフラについて知り、あらゆる年代にとって住みやすい町づくりのために自分にできる事を考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・ゲストティーチャー (中国新聞記者)
- ・大野西児童館
- ・大野子育て支援センター
- ・大野支所
- ・大野西市民センター

★学習活動のアピールポイント★



＜新聞記者の講話＞



＜職場体験学習＞



＜発表資料＞

- ・クロムブックを一人1台活用することで、効率的に情報収集を行うことができた。また、分かりやすく伝えるための構成や表現方法を考えて、発表をすることができた。
- ・職場体験先でインタビューを行ったり、学んだりしたことについて、1人ずつ発表資料を作成することで、生徒が自分ごととして主体的に活動に取り組むことができた。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 身近な地域にある施設の役割について知り、これまで考えたこともなかった課題や将来の姿を学び、自分ごととして地域の課題を感じることができていた。
- 大人に対して敬意をもって接することが大切だということを知り、その気持ちを行動に移す姿が見られた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇児童館や子育て支援センターでは、乳児の定期検診を行ったり、保護者の相談に乗ったりしていることを知った。
- ◇市役所は地域の防災施設や道路の維持管理も行っていて、住民の安全を守っていることがわかった。
- ◇市民センターは、高齢者の心身の健康増進や維持のための講座を開設していることを知った。

単元名

廿日市・宮島と京都の比較学習

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)
◎廿日市のために、自分ができることは何だろうか？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)
●観光地における自然や暮らしの違いは何だろうか？

【単元の目標】
自分たちが住んでいる廿日市市を知り、身近な観光地宮島と修学旅行先である京都を比較し、廿日市や宮島がより良くなるための分析を行い、将来実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・京都市の人々
・宮島町の人々
・観光に来た人々

★学習活動のアピールポイント★



<調査の工夫>



<外国人観光客に調査>



<整理・分析・まとめ>

- ・事前に調べた内容をもとに、現地調べやインタビュー活動を通して調査を行った。インタビューにおいては、パネルを活用したり、英語で多くの外国人観光客に聞いたりした。
- ・ゲストティーチャーを活用し、宮島の歴史や文化について学べるよう工夫した。
- ・修学旅行先の京都では、各班が十分に探究活動ができるよう時間を確保し、事前に学習した廿日市や宮島との比較を意識しながら学習活動を行った。
- ・整理、分析、まとめにおいてはすべてパソコンを活用して行った。スライドにまとめた内容を発表、展示し、探究した学習を発信する場を設けた。

児童生徒の成長した姿 (○)

- よりよく情報を収集するために、役割分担をして効果的に活動したり、積極的かつ工夫してインタビュー活動したりするなど、生徒の創意工夫する姿がみられた。
- 廿日市と京都では同じ国でありながら、それぞれの文化や特色、実態に応じた自然保護や暮らしがあることに気づくことができた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇歴史ある建造物がたくさん残っていることに感動した。それらを守るとともに、暮らしている人や自然も共存できるよう考えていることが分かった。
- ◇インタビューは緊張したけど、勇気を出して声をかけることができた。コミュニケーション能力や行動力がついた。

単元名

Unit 6 Beyond Borders

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎社会的な話題について、英語で分かりやすく伝えるためにはどうすればよいだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●「千年先も、いつくしむ」宮島を創るために、自分は何に取り組んだか、これからは何ができるだろうなど、自分自身の考えや気持ちを英語でどのように伝えたらよいだろうか。

【単元の目標】

宮島の現状や未来を踏まえてできることやすべきことなど、自分の考えを相手に発表することができる。

★学習活動のアピールポイント★



- ・総合的な学習の時間で取り組んでいる「宮島☆未来プロジェクト」と関連させて、宮島の現状や課題と向き合い2年間の個人探究を重ねたものを英語で世界に発信することを目標にしたことで、生徒が自分事として捉え、今まで学習してきた文構造を積極的に用いて相手に伝えようとしていた。
- ・ロイロノートを活用して、生徒それぞれの考えや思いを気軽に共有できるようにすることで興味・関心を高めさせた。
- ・教師の見本文例をロイロノートで配信し、電子黒板にも掲示をした上で文章の書き始めやまとめ方などを視覚的に理解させた。

児童生徒の成長した姿（○）

- 日本語でまとめているものを英文にすることは難しいが、教師の見本文例を掲示したことでそれらを参考にしながら文構造を理解したり使ったりしながら相手に伝えることができた。
- 生徒自身の実生活での場面や状況に合わせた適切な文を話す帯活動を計画的に仕組んだことにより、英語が苦手な生徒であっても、自分自身の考えや気持ちを簡単に伝えることができた。
- 「宮島☆未来プロジェクト」と関連させることにより、自分達のふるさと宮島を深く学び、英語を通して自分の考えを発信することができた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇いらぬ部分を削除したり、間違えたところを直したり、仮定法の文章を作ったりしました。仮定法を使い「みんながマナーを守って見られる花火大会になったらいいなあ」という文を作りました。
- ◇なぜ自分がそのトピックを選んだのかの理由や自分が調べている内容は2つあるため列挙して説明することができました。次回は、相手への伝え方に工夫をしたいです。
- ◇実際に自分が9年生になって作ったポスターを提示して、「こういうことを行いました。」としっかり伝えられたと思います。相手がわかるように分かりやすい単語で伝え、工夫してこういうところをしっかりと伝えたいというのが伝わったのかなと思います。宮島がもっとこうなってほしいっていうのもっと加えて伝えられるようにしたいです。